

## 豊能広域こども急病センター

2007.5.1 vol.2

小児救急医療をめぐる

### 小児救急医療の役割分担

市立吹田市民病院 小児科  
主任部長 松崎 香士

当番病院の役割と豊能広域こども急病センター(以下「センター」といいます。)開設後の私ども市立病院の変化についてお話をします。当番病院とは、センターを受診された患者さんのうち、精密検査や入院が必要と診断された患者さんを受け入れる市立病院等のことをいいます。

当番病院は、現在豊中市、箕面市、池田市、川西市、吹田市の各市立病院及び済生会吹田病院で構成されています。当番病院は、決められた当番日に最低2床(ベッド)を確保し、センターからの重症患者等の受け入れのため待機しています。

当番病院へ送られるのは、センターを受診された患者さん100人に対して約2人です。そのほか、当番病院は痙

攣の患者さんの救急搬送、24時以降の全ての救急搬送、また異物の誤飲、当番日の翌日の朝7時から9時までの一次、二次救急患者さんを受け入れています。

センターが開設されるまで、各市立病院等の小児科医は一人で一次、二次救急患者の診察、入院になれば処置、指示も行っていました。また、入院患者の急変時の対応、リスクの高い分娩、帝王切開の立会い。これらの業務すべてを一人の医師が救急患者の診察の合間に行っていました。また、当直医は当直翌日も日勤勤務をしていました。

今から思うと医療過誤が生じてもおかしくない環境でした。

センター開設後も病院での当直回数は月4~5回、当直翌日の日勤もあ

り勤務回数そのものはあまり変わっていません。しかし、勤務内容は、当センターができたおかげで一次救急の仕事量が減り、その分入院患者の治療に専念することができています。

以前より「質の高い医療」を提供できる環境になりました。それでも、まだまだ小児科医の不足は解消されていません。また、小児救急の需要も減りません。センターの地理的問題など、全ての人が満足できる救急システムでもありません。

しかし、一次救急と二次救急との役割分担方式を採用した豊能地域の小児救急医療システムは、現時点において、効率的で安全な「質の高い医療」を提供できる最善の方策と思っています。

これからもセンターと当番病院との連携を深め、さらに良い小児救急医療を提供できるよう努力していきます。皆様のご理解とご協力をお願いします。



### 春から夏にかけて流行する病気 なつかぜ「ヘルパンギーナ」

大阪大学医学部 山岸 義晃

インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症が峠をこすと「なつかぜ」のこどもが外来に増えてきます。

ヘルパンギーナは、エンテロウイルスによっておこる「なつかぜ」の一種です。

5月の末ごろから6月の初めごろに流行しはじめ、7月の末ごろにピークを迎えます。

患者さんのほとんどは、6歳未満の乳幼児で、1歳児が約2割をしめます。

症状は、突然の高熱とともに、のどの奥に水ぶくれができ、やがてその水ぶくれが破れて痛みをともな

います。

小さいお子さんの場合、水分をぜんぜん欲しがらうとしない、食べ物を食べると痛がるなどの症状と高熱で発病に気づかれることが多くあります。

熱は2~4日程度で下がり、のどの痛みも数日程度で改善します。

ヘルパンギーナを早くなおす治療はありませんが、こじれることが比較的少ない病気です。

対処方法としては、こどもの体力が持つよう、脱水に気をつけて少しずつ水分を補給することが大切です。なお、非常にまれですが、心筋炎や脳炎などが合併することがあります。

早く見つけるには、発熱よりも意識状態や呼吸の様子などの症状に注意することが大切です。



## コラム

このコーナーは、当センターに勤務している医師、看護師等のコラムを掲載しています。

### インフルエンザのときの異常行動

吹田市市医師会 山上 文良

インフルエンザが一段落してきました。

小児の場合は高熱・体のだるさなどインフルエンザの症状が出始めて2日間以内に脳症や一時的な脳機能障害がでる場合があります。痙攣をはじめ、幻覚や訳のわからないことを言ったり、急に徘徊をします・走り出すなどの症状が見受けられます。これはタミフルが発売される以前からインフルエンザにかかった時にみられていました。タミフルを飲んでいないから異常行動は起きないというものではありません。従って、タミフルを飲んでいる・飲んでいないにかかわらずインフルエンザの症状が出てから2日間はしっかりお子さんお様子を見ておく必要があります。興奮、幻覚や異常行動が1時間を越えて続くようであれば、救急受診しましょう。

タミフルは万能薬ではありません。

インフルエンザと診断されたからといってすべての方が飲む必要があるわけではありません。主治医や救急の先生とよく相談して飲む必要があるかどうかを決めることが大事です。



### 心を癒す医療を… 「mother lake」琵琶湖

国立循環器病センター 小児科 宗村 純平

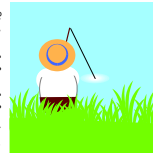
国立循環器病センターに勤務している宗村です。今回は大阪の方々に滋賀県の宣伝をしたく筆を執りました。私の出身地は神奈川県ですが、18歳以降は滋賀県に住んでおります。初めて滋賀に来た時、京都から向かう電車の中で車窓の外を流れていく畑、田んぼ、山ばかりの景色に愕然とし、失望したのを今でも鮮明に覚えています。しかし住めば都とは本当によく言ったものです。時間が経つにつれどんどん滋賀県を好きになりました。中でも魅力の中心はやはり琵琶湖だと思えます。滋賀県に住んでいると休日に景色のよい湖畔の芝生でお弁当を食べたり、バーベキューをすることが手

軽にできてしまいます。夏の琵琶湖花火大会は規模はそれ程大きくないですが、湖の上で上がるためか迫力満点で毎回感動せずにはいられません。また夕暮れ時に琵琶湖を見ながらボーっとしているとなんとも言えない癒しを与えてくれます。

滋賀では琵琶湖のことを「mother lake」と呼んだりしますが、まさに母のように安心させてくれる大きな存在感があります。

しかしそれ以外にも滋賀にはいい点がいっぱいあります。物価が安い、道がそれほど込まない、新作映画もほとんど並ばず見れる(大きな映画館は意外といっぱいある)、近江牛が安く手に入る…まだまだ滋賀県の魅力はいっぱいあるのですが今回はこのへんで止めておきます。

私も滋賀県に住むものとして琵琶湖のように人を安心させる心癒すことのできる医療を大阪でもしていきたいと考えております。



### 1歳を迎えた誕生日のプレゼント… 麻疹(はしか)などの予防に早めのワクチン接種を

看護師 山縣 多恵

今年もインフルエンザが流行し、当センターも混雑しましたが、ようやく落ち着きを取り戻しつつあります。

少し前ですが、当センターや近隣の医療機関関係者にちょっとした緊張がはりました

それは麻疹(はしか)が発生したからです。

インフルエンザも心配ですが、麻疹は感染力が強く肺炎や脳炎を合併し、最悪死亡することがある重い病気です。麻疹を流行させてはいけないということから調べてわかったのですが、麻疹の予防接種を受けていないお子さんが意外と多かったことです。現在は麻疹・風疹混合ワクチンとして1歳から2歳の間に1回、5歳から7歳の間に1回接種します。1歳を過ぎたらお子さんへの誕生日のプレゼントとしてぜひ早めのワクチン接種をお勧めします。まだ、接種していない方は、かかりつけ医に相談してみてください。



### 受付(診療)時間

- 平日 18:30～翌6:30 (診療開始は19:00からです)
  - 土曜日 14:30～翌6:30 (診療開始は15:00からです)
  - 日曜・祝日・休日 8:30～翌6:30 (診療開始は9:00からです)
- 年末・年始(12/29～1/3)

### 編集後記

インフルエンザのピークが過ぎました。当センターにもたくさんのお客さんがこられました。また、タミフルに関する対応もありました。日々何かがおこります。病気がなくなれば…と思っても新たな疾患が発生します。しかし、病がある限り、子どもそして保護者の方の幸せづくりに貢献するという当センターの使命を果たさなければなりません。でも、病気の予防には心がけたいですね…

豊能広域こども急病センター事務局 H. N

